

## 創刊のことは

科學の振興がどんなに高く叫ばれても、そして實際どんなに深く事物が究められても、その成果のすべてが具體的に記述されなければ、何の意味もなさない。またかかる科學的探究の成果がどんなに多く綴られても、それが發表される適切な機關がなければ、科學の振興は期し難い。

例へば本邦醫事雜誌出版界の現状を見ると、學術的研究論文を掲載する雜誌の多くは各科の専門雜誌である。しかもそれらは著しい數に上り、これに加へて論文の大多數が何れも長篇であるため、今日では各科の最前線の知見に通曉することは事實上不可能である。抄録はその缺を幾分補ふにしても、自ら趣を異にするところがある。かくて多くの好學の士は徒らに學に渴え、遂には究學、向學の心が枯死するに至る。一方研究者の側から見ると、各専門雜誌は長篇論文の集積のため、印刷發表の時期が遅延するのみならず、その頒布範圍も種々の制限を受けて、折角の成果も看過せられる懼れが少なくない。また醫學と極めて密接な關係にある生物學領域においても、多少事情の異なるものがあるが、學術論文の發表機關體制といふことに至つては、その數は同じである。

この弊を除くためには、すべての學徒がその成果を極めて速かに報告することが出来、また學徒はそれを簡便に讀み得て、以て相互の向上に資するやうな、綜合的中樞的機關を持つことが必要である。而してその機關が十分に機能を發揮するためには、簡にして要を得た論文が一時に多數收容されることが必要である。長篇の詳報は他日に譲り、とにかく限られた紙面の範圍で、報すべきを速かに報じて、共に考へ共に進まねばならない。要するに短篇の學術論文を一時に多數掲載し得る速報雜誌の必要が痛感されるのである。

歐米に於ては、夙にこの種の形式の雜誌が存在し、その全機能を發揮して、大いに學界に貢獻しつつある。この事情に鑑み、本邦の現状に想ひ及んで、本會はここにかかる機能を有する雜誌を、醫學と生物學との領域のために刊行提供し、以て本邦斯界の進歩向上に寄與せんとするものである。

昭和17年1月

醫學生物學速報會